鉄鋼ニューズ

34年の鉄鋼輸出船積み高

鉄鋼連盟の調査によると，34年（1～12月）の鉄鋼輸出船積み高は合計180万t，29,000万弗に達した．これは前年実績（183万t，27,000万弗）に比べ，数量は2%減，金額は6%増で，金額はこれまでの最高輸出金額である30年実績27,500万弗を更新した．数量が減つたのに引きかえ金額がふえたのは，(1) 国際市況の好転を反映して輸出価格が上昇した，(2) 単価の安い銑鉄，半成品の輸出が減つたかわり，単価の高い亜鉛鉄板，二次製品などの輸出がふえたなどによる．

輸出市場については，33年後半以降急増した米国向けが引続き好調を示し，34年実績では66万tで，全輸出量の36%を占めるに至つた．このほかブラジル，カナダ向け輸出もいちじるしくふえたが，インド，アルゼンチンは大巾に減退した．わが国の近隣市場である東南アジア諸国向けはインドを除いて横ばいに終わつた．

輸出品種をみると，二次製品がいちじるしく伸びたが亜鉛鉄板，特殊鋼も着実な上昇ぶりをみせた．普通鋼鋼材関係では線材，鋼管がふえたが，軌条，棒鋼，薄板が減つたため，合計では若干の減退となつた．銑鉄，半成品は輸出余力がないので不振であつた．鉄鋼輸出金額のわが国総輸出額に占める割合は，全般的に輸出が伸びているため8·4%（前年9·5%）にとどまつた．また鉄鋼生産量に対する鉄鋼輸出量の割合は，鉄鋼生産量も相対的にふえたので前年の18·3%から13·3%に後退している．（2. 13. 日本経済）

34年の鉄鋼原料の輸入

鉄鋼連盟は，34年（1～12月）の鉄鋼原料輸入の実情をまとめ発表した．これによると鉄鉱石，鉄鋼用原料炭鉄くずなどの平均輸入指数は231（30年＝100）で，前年比75%増，またこれまでの最高32年の指数209·3%を約10%上回つたが，このうち鉄くずは前年の3倍と特にふえ方が激しい．このほか鉄くず需給の緩和から鉄くず価格が安定するなど輸入事情の好転が目立つている．発表の要旨つぎの通り．

1．鉄鉱石：1,037·7万t（湿量）と前年に比べ36·8%ふえた．これは消費量とほぼ同量であるが，一方国内鉱石の消費量は前年を下回つたので，輸入依存度は前年の65·7%から72·7%へと上昇した．地域別に見るとゴア，マラヤからの輸入増加がいちじるしく，それぞれ前年比75·8，57·1%ふえた．東南ア鉱石全体としては全体の83·4%でやや増加した程度だが，ブラジルや南ア連邦など遠隔地からの輸入増加が目立つている．

2．粘結炭：34年度の輸入量は全産業で438·2万tと前年比90%増，また鉄鋼部門の輸入は390·7万tと前年比2%ふえ，他産業の原料炭消費の停滞に反し大きく増加した．輸入価格は海上運賃，FOB価格の低下で平均当たり価格18弗で前年に比べ16·6%下がつた．米国炭は全体の80%を占め，前年とほぼ同だつたが，豪州炭の増加が目立ち，輸入価格低落の一因となつた．また原料炭消費量は輸入炭411·1万t，国内炭508万tで計919·1万tだつた．

3．鉄くず：405·2万tで，前年の3倍強となつた．しかし米国くずへの依存は33年の60%から34年は55%に低下し，また米国を含むFA地域からの輸入は66%から60%に減じた．鉄くずの輸入価格は31，32年に比べると目立つて安定した推移を示し，米国くずはやや前年を上回つたものの，輸入平均価格は49·27弗と前年に比べ3·3%上昇したに過ぎなかつた．最近は下落する傾向にあり，米国くずは，年末に40弗を下回る情勢となつた．鉄くず軟化の理由としては，(1) 米国内での自動車発生くずの増大，(2) 直接製鋼法の進歩と溶銑使用率の上昇，(3) 鉄鋼製品の品質管理と経済ベースの改善などがあげられる．また今後鉄くずの需給は緩和する傾向にある．（3. 3. 日本経済）

昨年の世界進水実績

ロイド船級協会はこのほど1959年の世界各国造船実績のうち進水実績を集計発表したが，これによると日本は全進水量の19·7%を占めて進水量で依然世界第1位をランクしている．1959年に進水した船100総t以上のものの全世界総計は8,743,704総tでこれは1958年と比較して524,000余総tの減少である．この総計数の内容の各国比は，日本が19·7%で第1位，ついでイギリスの15·7%，第3位は西ドイツで全体の13·7%となつている．

比率はこのように日本が第1位を占めているが，総額では各国とも1958年度より減少して，その減少が最もいちじるしいのが世界の造船国といわれる日本，西ドイツ，アメリカとなつている．さらに注目されるのはスエーデン，オランダ，ノルウエー，ポーランド，ベルギーユーゴスラビアの各国で，これらは世界の総量からみたら少ないが，1959年に進水した量がそれぞれ増加していることである．

このうちスエーデンの進水量が増加したことは，ギリシア系船主が造船船価の低下時をねらつた発注をスエーデンの造船所が受注したことによるものと見られている．（3. 11. 日本経済）

ビライ製鉄所の銑鉄生産

インドビライ製鉄所は，昨年2月4日に作業を開始して以来，昨年末まで約10カ月間に生産した銑鉄は30万tに達した．現在は1日当り約1千tの銑鉄を生産している．今までビライ製鉄所から出荷された銑鉄の量は24.6万t以上に達しているが，そのなかには日本に輸出された銑鉄20万tも含まれている．鋼の生産は昨年10月から始められたが，同年12月10日までの生産高は全部で1.8万tであつた．（2. 8. 鉄鋼新聞）

ステンレス鋼生産の躍進

特殊鋼倶楽部の調査によると，日本のステンレス鋼生産量は自由世界で米国についで第2位，対全粗鋼比では米国と全く並行するという躍進振りを示している．すなわち1958年度では日本のステンレス粗鋼生産量11·3万は米国，イギリスについで第3位であつたものが，1959